

雜誌第5號

# 臺灣南西諸島水路誌

南西諸島

大東島 尖頭諸嶼

臺灣及附近島嶼 新南群島

---

昭和16年3月刊行



水路部



232

231

231

230  
1217

蘇澳灣 239\*

連港 237\*

1203\*  
尖頭諸嶼

南

1207

1204

1206

1204

1206\*

與那國島

西表島

重山列島

石垣島

伊良部島

241

宮古列島

1205

224

1204

書誌第5號

# 臺灣南西諸島水路誌

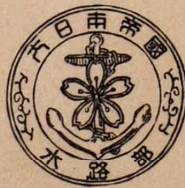
南 西 諸 島

大 東 島 尖 頭 諸 嶼

臺灣及附近島嶼 新南群島

---

昭和 16 年 3 月 刊 行



水 路 部

第七課

# 臺灣南西諸島水路誌

## 序

本誌ハ昭和7年7月刊行ノ臺灣南西諸島沿岸水路誌ヲ次ノ資料ニ據リ改訂増補シタルモノナリ。

1. 昭和14年9月刊行臺灣南西諸島沿岸水路誌追補第7
2. 昭和15年5月25日水路告示第21號迄
3. 當部蒐集ノ各種資料

本誌ノ誤謬、脱漏改補資料等ハ速ニ當部ヘ通報アラシコトヲ希望ス。

昭和16年3月

水路部長 小池四郎

## 關係水路誌ノ沿革

1. 明治18年5月寰瀛水路誌第1卷上ヲ刊行ス。
2. 明治19年3月寰瀛水路誌第1卷下ヲ刊行ス。
3. 明治27年7月日本水路誌第2卷ヲ刊行ス。
4. 明治29年7月日本水路誌第2卷附録ヲ刊行ス。
5. 明治41年10月日本水路誌第2卷下ヲ改版刊行ス。
6. 大正5年日本水路誌第2卷下ヲ日本水路誌第6卷ト改稱ス。
7. 大正8年7月日本水路誌第6卷ヲ改版刊行ス。
8. 昭和5年12月日本水路誌第6卷ヲ臺灣南西諸島沿岸水路誌ト改稱ス。
9. 昭和7年7月臺灣南西諸島沿岸水路誌ヲ改版刊行ス。
10. 昭和16年3月臺灣南西諸島水路誌ヲ刊行ス。

	頁		頁
栗國島	112	黑島	130
渡名喜島	112	新城島	130
久米島	113	鳩間島	130
鳥島	115	鳩間水道	130
大東島	115	西表島	130
北大東島	115	波照間島	133
南北大東島間ノ水道	116	仲ノ神島	134
南大東島	116	與那國島	134
沖大東島〔ラサ島〕	118	赤尾嶼及尖頭諸嶼	134
先島群島	119	氣象	135
氣象	119	赤尾嶼	135
潮流	120	尖頭諸嶼	135
宮古列島	120	海流	136
池間島	121	黃尾嶼	136
伊良部島	121	北小島及南小島	137
來間島	121	魚釣島	137
宮古島	122	<b>第5編 臺灣北岸</b>	139
平良港	122	漁業禁止區域	139
水納島	124	臺灣北東端沖合ノ離嶼	139
多良間島	124	花瓶嶼	140
八重山列島	125	棉花嶼	140
風土病	126	彭佳嶼	140
石垣島	126	三貂角至富貴角	141
石垣泊地	128	軍機保護區域	142
竹富島	129	潮汐	142
小濱島	130	潮流	143
小濱航門	130	基隆港	145

湮、最大幅約 1.8 湮、島頂（高サ 68 米）ハ平坦ナリ、遠望 スレバ 樹木 鬱鬱トシテ 巨樹 アルモノノ如シ◎島周ハ少許ノ間概シテ 珊瑚礁 沿布シ殊ニ 島ノ西端ヨリ 最モ多ク 擴延セリ、上陸ニ便ナルハ 唯北西岸ノミニシテ 其ノ他ハ 舟ヲ寄セ難シ◎本島ハ 地味膏腴ニシテ 五穀ヲ産シ又 數百頭ヲ牧養ス。

**仲ノ神島**（ナカノガン） 西表島ノ西端八重目崎ノ南西方約 8.5 湮ニ在ル 高サ 102 米ノ岩嶼ニシテ 東西ニ長ク長サ約 8 鏈、周圍險崖急深ニシテ 唯西端ノミハ約 1 鏈ノ間 珊瑚礁 擴延セルヲ異トス◎此ノ島ニハ 無數ノ海鳥 群棲スルヲ以テ 6 月—7 月頃 西表島ノ住民 渡來シ其ノ産卵ヲ拾集シテ 食用ニ供スト謂フ。

**暗礁** 仲ノ神島ノ西方約 4.5 湮ニ水深 18 米ノ暗礁アリ、底質珊瑚及岩ニシテ 四周急深他ニ危険ナシ。

10

**與那國島** 西表島ノ西方約 36 湮ニ在ル 南西諸島中ノ最西島ナリ、東西ノ長サ約 6 湮、幅約 2 湮、島岸珊瑚礁沿布ス◎東西ニ各 1 山脈アリ、島頂ハ東脈中ニ在ル 宇良部岳ニシテ 高サ 232 米、兩脈共ニ樹木繁茂シ其ノ中間ハ稍平低ニシテ 耕地多ク南北ニ通ズル山道アリ。

島内人口 4,609（昭和 10 年國勢調査）、住民ハ專ラ 農業ヲ營メル 傍漁業ニ從事シ其ノ大多數ハ 租納、島仲、髻川（ヒナイ）、久部良ノ 4 村落ニ分住ス◎米穀ノ移出年額 2,000 石ニ達スト謂フ又多ク牛、馬、山羊ヲ牧養ス。

**租納**（ソナイ） 與那國島北岸ニ位スル島ノ主邑ニシテ 與那國村役場ノ所在地ナリ◎村落ノ前面ハ小灣ヲ成シ 珊瑚礁之ヲ圍繞シ能ク風波ヲ遮リ約 20 噸ノ小形船舶ヲ容ルルニ足ル、然レドモ灣口淺水險惡ナルヲ以テ 唯高潮平波ノトキノミ出入シ得◎大形船舶ハ灣口外側距岸約 4 鏈、水深 18—36 米、底質珊瑚及沙ノ處ニ一時ノ錨地ヲ得ベシ、但シ北東信風季ニハ海上荒ク錨泊ニ適セザルベシ。

20

**ナガイ瀬** 租納ノ灣口ト島ノ東端東埼（アガリ）トノ中間ニ於テ 距岸約 4 鏈ニ在ル 1 暗岩ナリ◎其ノ附近ハ水深淺ク 荒天ノトキハ破浪アリ。

### 赤尾嶼及尖頭諸嶼

南西諸島西端部ノ北側ニ於テ 南西諸島ノ列線ト竝行ニ之ト離レテ存在スル小嶼



及其ノ集團ニシテ、赤尾嶼ハ單獨ヲ以テ宮古列島ノ北方ニ、尖頭諸嶼ハ群集シテ八重山列島ノ北方ニ在リ。

諸嶼ノ支那東海ニ面スル側ノ水深ハ距岸1—2 哩ニシテ概ネ 130 米内外、底質ハ細沙ニシテ海底ノ不同ナキモ、之ニ反シ先島群島ニ面スル側ノ水深ハ距岸2—3 哩ニシテ忽チ 400 米以上ニ達シ尙遠ザカルニ從ヒテ水深急激ニ増加ス、是或ハ黒潮ノ影響ノ大ナルニ歸因スルモノナランカ。

**氣象** 本地方ハ天候ノ變化急激ニシテ 5—9 月間ハ概シテ偏南風吹き海上亦比較的平穩ナレドモ、10 月至翌年 4 月間ハ偏北風連吹シ天候險惡ニシテ波浪高ク陰鬱ノ荒天週日ニ互ルコト珍シカラズト謂フ。

**赤尾嶼** (セキビ) 宮古島北端ノ北北西方約 70 哩ノ洋上ニ孤立セル高サ 84 米ノ小岩嶼ニシテ全島熔岩ヨリ成リ樹木ナシ、東西ノ長サ 3.5 鏈、南北 1.5 鏈、四周斷崖急峻ニシテ登攀スルコト能ハズ、遠望恰モ帆走シツツアル和船ノ如ク嶼上海鳥群棲ス◎嶼ノ周圍ハ平坦ナル低キ床狀ヲ形成シ其ノ間ニ數條ノ罅裂ヲ有ス◎島ノ北端ニ著シキ尖岩直立シ形貌觀音像ニ似タリ。

下記ノ湍潮區域ハ其ノ水深不齊ナルモ島周ノ他ノ部分ハ概ネ急深ナリ。

**海流** 赤尾嶼附近ノ海流ハ甚ダ強ク流速 2.5 節ニ及ブ◎本嶼ヨリ西南西方約 6 鏈間及東北東方約 4 鏈間ニハ湍潮アリ。

### 尖頭諸嶼

尖頭諸嶼ハ黃尾嶼、沖ノ北岩、沖ノ南岩、北小島、南小島及魚釣島ノ諸嶼ヨリ成ル、最大嶼タル魚釣島ハ亦最西嶼ニシテ赤尾嶼ノ西方約 60 哩、西表島ノ北方約 80 哩、臺灣基隆港ノ東北東方約 100 哩ニ位置ス。

尖頭諸嶼ハ位置ノ關係上古來琉球人ニ知ラレ尖閣列島トモ呼バレタリ、外國人ハ之ヲ Pinnacle Islands ト稱セリ◎此等ノ諸嶼ヲ地質上ヨリ觀ルニ黃尾嶼ハ火山岩ヨリ成リ、北小島、南小島及魚釣島ハ水成岩ヨリ成リテ 2 者全ク其ノ趣ヲ異ニス。

諸嶼内ニハ定住者ナク漁期間八重山列島方面ヨリノ出漁者鰹漁ニ從事スル者アルノミ。

**海流**

尖頭諸嶼附近ニ於テハ黒潮ノ北東方ニ流ルルコト急ニシテ嶼周ニ激湍ヲ生ズ、沖ノ北岩附近ハ流勢最モ急ニシテ6艇櫓艇ノ如キハ操縦甚ダ困難ナリ、汽艇ト雖モ約4鏈ノ間ヲ運航スルニ1時間ヲ要セシコトアリト謂フ、操艇上深キ注意ヲ要ス。

**黄尾嶼**

尖頭諸嶼中ニ在リテ北東隅ニ孤立セル小嶼ニシテ南北約5鏈、幅約6鏈ノ殆ド圓形ヲ成セル熄火山島ナリ◎島頂ハ外輪山ニシテ島ノ中央ニ在リ、高サ117米、噴火口内ハ急下約20米ニ及ビ口底ニハ灌木密生ス、其ノ北方ニ在ル山頂亦之ト殆ド其ノ高サヲ同ジウス、最東部ニ在ル山頂(高サ54米)ハ島岸ニ接シテ峙ツヲ以テ認識シ易シ、此等ノ山頂ニハ悉ク噴火口跡ヲ存セリ。

10

島ノ周圍ハ巨大ナル熔岩ヲ以テ蔽ハレ徒涉困難ニシテ一ノ沙濱及小舟ノ泊地ト雖モ皆無ナリ、但シ僅ニ西岸ニ人工ノ凹所アルモ短艇2隻ノ同時著岸困難ニシテ風波時ノ避難ハ絶對ニ不可能ナリ◎島周ハ距岸約4鏈ニシテ水深20米ヲ超ユルモ錨泊ニ適スル處ナク風向ニ依リ風下側ニ避難スルモ全然無効ナリ◎島ノ南西部ニ小弊舎4—5軒アリ。

島内ニ多數ノ信天翁、目白、山猫、蜥蜴等棲息ス、蛇ハ生存セザルガ如シ、近海ニ魚類甚ダ多ク鯉、鱒、鱈等ハ其ノ主ナルモノトス◎山頂及山腹ハ棕櫚樹ヲ以テ蔽ハレ樹間ニ灌木密生ス、中腹以下ニハ密生セル灌木雜草中ニ百合、甘藷等ノ混生スルヲ見ル、是往時此ノ島ニ移住者アリテ漁業ノ傍此等野菜ノ栽培ニ從事セシコトアルニ因ルナランカ◎島内ニテハ天水以外ニ清水ヲ得ルコト能ハズ。

20

**海流**

島周ハ海流激シクシテ平穩時ト雖モ波浪相鬪ヒ舟艇ノ操縦困難ナリ、其ノ方向ハ風向ニ因リテ左右セラルルコト多キモ概シテ北東方ニ流レ流速1—2節ナリ、南風連吹時ニハ流速ヲ増ス。

**沖ノ北岩**

黄尾嶼ノ南西方約11.5哩ニ位スル高サ24米ノ岩嶼ニシテ遠望顯著ナリ、島上ニハ樹木ナク草モ亦生ゼズ。

**沖ノ南岩**

沖ノ北岩ノ南南東方約2哩ニ在ル高サ5米ノ小岩嶼ナリ、沖ノ

北岩ト同様島上ニハ樹木ナク草ヲモ生ゼズ。

**海流** 沖ノ北岩及沖ノ南岩ノ附近ハ北東ノ海流最モ激シキガ故ニ注意ヲ要ス。

**北小島及南小島** 此ノ2島ハ沖ノ南岩ノ南西方2哩餘ニ位シ遠望1島ノ如キモ幅約1.5鏈ノ淺水道ニテ南北ノ2島ニ分タル、兩島ハ全然岩骨ヨリ成リ殆ド樹木ナク唯雜草ノ繁茂スルアルノミ◎島岸ハ概ネ岩塊、沙及珊瑚礁ニシテ島ノ周圍ノ海底ハ岩ナリ、島周ニハ著舟シ得ベキ場所ナシ、但シ平波ノトキノミ近寄り得ルニ過ギズ◎此ノ兩島ニノミ特ニ群棲スル海鳥アリ、「アジサン」(Tern)ト稱シ其ノ數實ニ數萬ヲ算ス。

北小島(高サ129米)ハ南北ニ長ク其ノ西端ニ大ナル尖頂岩3箇アリ。

10

南小島(高サ149米)ハ東西ニ長ク其ノ東端ノ尖頭岩ハ頗ル顯著ニシテ黃尾嶼方面ヨリ望メバ一大尖岩ノ海中ニ突出スルガ如ク航行船舶ノ好目標ナリ◎南小島ノ北西端ニ捕鳥剝製用ノ小舎アリ、其ノ後方沙岩ノ間ヨリ流出スル水ハ使用セザルヲ可トス、是剝製用亞硫酸ヲ混ズル虞アレバナリ。

**海流** 北小島及南小島附近一帶ノ海流ハ極メテ急激ニシテ北東方ニ流ル、流速2—3節。

**魚釣島** 本諸嶼中ノ最大嶼ニシテ北小島ノ西方約3哩ニ位ス、東西ニ長ク長サ約2哩、幅約7鏈、形狀恰モ海鼠ニ似タリ◎山勢東西ニ延長シ北東方ヨリ遠望スレバ東西ノ2尖峯及中央ノ突出岩最モ顯著ナリ、西方ノ尖頂最モ高クシテ高サ362米、次位ノ東頂ハ高サ350米ナリ、而シテ山脈頂ハ尖岩參差及テ樹テタルガ如ク嶮峻ヲ極メ山頂ノ少シク下方ニ樹木密生ス、此ノ高頂脈ハ著シク南方ニ偏シ南方ハ斷崖島岸ニ削立シテ屏風ノ如ク岩層鮮ナリ。

20

島岸ハ概シテ岩沙ヨリ成リ南岸以外ハ幅約30米ノ尖銳ニ凹凸セル石陂ヲ以テ圍繞セラル◎距岸約2鏈ニシテ水深20米ヲ超ユルヲ以テ船舶ハ接近シ得ベキモ錨泊ニ適スル處ナク、且海流モ亦急激ナルヲ以テ漂泊ニモ多大ノ注意ヲ要ス◎毎年5月—8月間基隆港ヨリ發動機船ヲ以テ本島附近ニ鰹漁ニ來ルモノアルモ多クハ早朝來リテ夕刻ニハ出發歸港スルヲ常トス。

島ノ北東—北西ノ部面ニハ許多ノ細流アリテ水量モ亦豊富ナリ、其ノ西部ノモノハ白色ヲ呈シ硫黄ヲ含有スルモノノ如シ◎本島附近ハ魚族甚ダ多ク毎年漁期間沖繩方面ヨリ少數ノ漁夫來リテ鰹漁ニ従事ス◎鳥類中信天翁最モ多ク鳴、鴿、鷺、雀、鶉等棲息ス、蚊、青蠅多ク松虫、鈴虫、螢等モ生存ス又蛇、蜥蜴多ク蛇ハ毒蛇ニハ非ザルモ長サ 2.5 米内外ノモノ尠カラズ。

**和平庄** 最高頂ノ西方島岸ニ石壁ヲ繞ラセル小舎數軒（其ノ大半ハ腐朽ス）アリ、此ノ附近清水潤澤ニシテ「セメント」ヲ以テ築キタル水槽大小 4 箇アリ、清冽ノ水槽ニ溢ル、此ノ地ヲ和平庄ト稱ス。

10 和平庄ハ本島唯一ノ著舟地點ナリ、人工ヲ以テ島岸ノ石壁ヲ穿開スルコト長サ約 36 米、幅 4.5 米、此處ニ舟艇捲揚機ヲ備フ◎沖合ニ波浪アルトキハ餘波堀割内ニ及ビ著舟困難ナリ又大潮期ニハ低潮時水深僅ニ 0.3 米餘ニ過ギザルヲ以テ舟艇ノ出入全ク不可能ナリ。

**飛瀨** 魚釣島東端ノ南東方約 8 鏈ニ在ル高サ 3.4 米ノ岩ナリ◎此ノ附近ニ激湍アリ。

昭和 16 年 3 月 25 日 印刷

昭和 16 年 3 月 28 日 發行

發 行 者 水 路 部

東京市京橋區築地 5 丁目

印 刷 者 水 路 部

東京市京橋區築地 5 丁目

販 賣 所

東京市麴町區丸ノ内 2 丁目 20 番地ノ 1	日本郵船株式會社
橫濱市中區海岸通 3 丁目 9 番地	同 橫濱支店
名古屋市西區御幸本町通 9 丁目 8 番地 (日本鐵兵館内)	同 名古屋支店
大阪市西區川口町 26 番地	同 大阪支店
神戸市神戸區海岸通 1 丁目 10 番地	同 神戸支店
門司市門司字棧橋通 1 番地ノ 1	同 門司支店
長崎市常盤町 4 番地 (東亞海運株式會社 長崎支店)	同 長崎代理店
函館市船場町 19 番地	同 函館支店
小樽市手宮町 3 丁目 15 番地	同 小樽支店
臺灣基隆市明治町 1 丁目 8 番地	同 基隆支店
朝鮮釜山府大橋通 2 丁目 14 番地 (朝鮮郵船株式會社釜山支店 會計課釜山分室)	同 釜山代理店
中華民國上海黃浦灘路第 31 號	同 上海支店
大連市山縣通 181 番地	同 大連支店
神戸市神戸區海岸通 5 番地 (商船ビル 6 階)	日本海運協會海圖部

(定價金 2 圓)

